

あぶらや みく

油谷 美紅 議員(相沼小学校5年)

子どもからお年寄りまで 安全で楽しいまちづくりを



八雲町が子どもからお年寄りまで皆にとって安全で楽しく暮らせる町になってほしいので2つの事を提案します。

①熊石地域は海に面していますが海水浴場がありません。シャワーやトイレが併設された海水浴場があると、観光客も遊びに来て地域がにぎわうと思います。②津波が起きた時、私たちの地区では「あんば山」という小高い場所に避難しますが、雨や風を防ぐ場所も建物もありませんので、特に冬期間、生き延びれないと思います。子どもやお年寄りもいるので、防災に備えた道具や設備が整った避難所を作ってほしいです。

答弁)町長

①熊石地域では、町外からの利用者の増加と地域の活性化を目指し、国民宿舎ひらたない荘、キャンプ場、温水プール、スキー場を整備し、町内外の方等、多くの方が利用されました。更にテニスコート、ミニパターゴルフ場のほか、平成4年に鮎川海岸の天然の岩場を北海道の形にくり抜き、海水浴場として整備しました。開設当初の平成4年には7,863人の利用がありましたが、平成11年には2,185人まで利用者が減り、今後の利用増加は見込めず閉鎖しました。新しく海水浴場を造るにはたくさんのお金が必要になり難しい状況です。熊石地域の海は、海水浴場の指定は無く、トイレ・シャワーなどの施設もありますが、きれいなこの海でルールを守り海水浴を楽しんでほしいと思います。

②津波の時の避難路は各地区の町内会と相談し、協力して避難路整備、避難訓練なども行っています。地震発生後は、ライフラインや食糧の備えが途絶えることがあり、地域と役場などの機関が助け合わなくてはなりません。東日本大震災では電気、水道などは90日以上かかり復旧したそうです。町では、有事の際、最初に自分の命を守るためにどこに避難するか普段から考えてもらうようお願いしています。あんば山は最初に避難する一次避難場所での避難が続く場合、津波の心配のない学校やくまいし館などに避難所を開設します。災害に備えた道具や設備が整った避難所は、町内会などとの災害に対する話し合いや避難訓練時の反省などでさまざまな意見があり、避難場所に屋根のある避難所の要望もあります。あんば山付近では、土地の確保や建物の利用計画等で今すぐに屋根付き避難所を建てることはできませんが、悪天候等の心配もありますので対応を検討したいと思います。現在、北海道では日本海側で予想される地震津波についての浸水予測シミュレーションの作業が行われ、来年3月以降に発表予定です。その発表をもとに熊石地域でも避難計画全体の見直しを行っていく予定です。

こむら きの

幸村 樹乃 議員(野田生小学校5年)

野田生に公園を造ってほしい



野田生には「野田生公園」という池やパークゴルフ場などがある公園が山の方にありますが、熊やヘビ、大人の目も届かず子ども達は遊びに行きません。4年前から学校の遊具が撤去され、今はブランコくらいになりました。私たちが住む近くに沢山の遊具や広場、地域の人が安心・安全に遊べる公園があればいいと思います。

答弁)町長

野田生は私も小さい頃に育った所なので、よくわかります。たしかに野田生公園は、小さな子どもたちで行くのは少し不安を感じます。町の中の公園は、みんなで遊んだり、いっぱいお話をしたり、お年寄りと触れ合ったり、そんなことができる大切な場所です。今は財政という町のお金の貯えが少ないのですぐに造るのは無理ですが、住みやすい町づくり、住んで良かったと思える町づくりは、役場の仕事の基本です。将来に向けてじっくり考えたいと思います。なお、学校の遊具を増やすことはすぐに実現はできないかもしれませんが、各学校の要望などを考え整備していきます。

あべ ふうか

阿部 楓華 議員(八雲小学校6年)

観光客が観光しやすい 町にしたい



観光に来た日本語の読めない外国人でも観光を楽しんでもらえるように、外国語のポスターや、パンフレットなどを作り掲示や配布をすれば、観光しやすい町になり交流が深まると思います。

答弁)町長

北海道に観光で来ている外国の方は、約154万人です。八雲町にはまだ多くの外国人は泊まっていますが、パノラマ館や丘の駅では、台湾、中国、インドネシアなどから来た方が来場していることです。多くの外国人に楽しんでもらうためには、外国語の案内表示やパンフレットは大切なことです。このため、町内の皆さんと協力して中国語のパンフレットを作り、今は英語のパンフレットを作っています。丘の駅のホームページでは英語と中国語による案内もしています。八雲町に親んでもらう工夫を考えていきたいと思っています。いろいろな取組を通じ外国人と町民の皆さんと交流が深まり八雲町の国際化が進めばよいと考えています。皆さんも外国の文化や言葉を勉強して一緒におもてなしをしてください。

かつや なぎさ

勝谷 凧沙 議員(山越小学校6年)

パノラマパークの施設充実を



八雲町には遊具などで遊べるパノラマパークがありますが、そこに併設して遊園地のようなアトラクションを足し、小さな遊園地を造れば良いと思います。今の施設もたくさんの観光客が来ますが、小さな遊園地を造ると更に観光客が来るようになり観光スポットにもなると思います。そして、近くに宿泊施設を造ると遠くから来た人も泊まることができます。また、近くに住む人も楽しめる場所ができると思います。このような施設を将来造ることは考えられないでしょうか。

答弁)町長

観光客をもっと集めるために、とても素晴らしいご提案だと思います。パノラマパークは平成18年にオープンしましたが、最初の年間入場者は23万人でした。10年たった今年、65万人を超えそうです。さらに八雲町の名所とするために、議員のご提案も参考にいろいろ工夫したいと思います。ただし、宿泊施設については、公園には民間で運営しているキャンプ場、海側には同じく民間で経営している温泉ホテルがあります。民間企業の皆さんに頑張っていただき、観光客の受け入れを増やしたいと思います。八雲町に観光客をいっぱい集めるために、これからもいろいろなご提案をお願いします。